20 ヨコハマ トリエンナーレ
20 YOKOHAMA TRIENNALE
AFTERGLOW
光の破片をつかまえる

プレス資料

2020年7月16日

目次

文化芸術の持つ創造の可能性－世界に先駆けトリエンナーレ開催
林　文子　横浜トリエンナーレ組織委員会 名誉会長・横浜市長 …… 3

現代アートがむすぶ人、社会、時代
近藤　誠一　横浜トリエンナーレ組織委員会 委員長 …… 4

ヨコハマトリエンナーレ2020に向けて
逢坂　恵理子　横浜トリエンナーレ組織委員会 副委員長 …… 5
蔵屋　美香　横浜トリエンナーレ組織委員会 副委員長

アーティスティック・ディレクターからのメッセージ　ラクス・メディア・コレクティブ …… 6

展覧会という「茂み」について
木村　絵理子　ヨコハマトリエンナーレ2020企画統括 …… 9

参加アーティスト一覧 …… 10

あらゆる方々に開かれたトリエンナーレを目指して …… 12

チケット情報 …… 14

新型コロナウィルス感染症対策
アクセス …… 15

支援／特別協力／後援／協賛／協力／助成／アーティスト支援／認証 …… 16

開催概要 …… 17

ヨコハマトリエンナーレ2020 実施体制 …… 18

開催実績 …… 19

文化芸術の持つ創造の可能性－世界に先駆けトリエンナーレ開催

ヨコハマトリエンナーレ2020「AFTERGLOW－光の破片をつかまえる」の開催にあたり、ご協力いただいている市民の皆様、企業・団体の皆様に、厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症と共生する「新たな日常」を世界中が模索する中、このたび、ヨコハマトリエンナーレ2020を開催します。世界のビエンナーレ、トリエンナーレに先駆けて開催することで、皆様に、明るい気持ちをお届けできると確信しています。また、世界中のアーティスト、芸術家の皆様に勇気をお届けしたいと思います。開催にあたっては、万全の感染症対策でお客様をお迎えしますので、安心して作品をご覧いただきたいと思います。

今回のヨコハマトリエンナーレは、インドのアーティスト集団「ラクス・メディア・コレクティヴ」をアーティスティック・ディレクターにお迎えいたしました。世界最先端のアートの視点から、世界と日本、社会と個人の関係を多角的な視点で見つめ直し、新たな発見と刺激に満ちたトリエンナーレを創り上げていきます。また、創造界隈拠点のアートイベント「BankART Life VI」や「黄金町バザール2020」のプログラムと連携し、広く横浜の街をお楽しみいただけるトリエンナーレとしていきます。さらに、将来を担う子どもたちをはじめ、あらゆる人々が多様な表現と触れ合い、相互理解と交流を深めていくことができるよう、次世代育成や社会包摂の取組も進めてまいります。

横浜は、「文化芸術創造都市・横浜」として、文化芸術の持つ創造力を信じ、まちづくりを進めてきた都市です。現在、新たな劇場整備に向けた検討も進めています。

新型コロナウイルスとの共生という、誰もが経験したことがない状況に直面している今だからこそ、私たちの生活には文化芸術が必要です。「ヨコハマトリエンナーレ2020」を通じ、ここ横浜から、文化芸術の持つ力の可能性を世界中にお届けしていきます。

ナショナルプロジェクトである横浜トリエンナーレに、今後ともご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

横浜トリエンナーレ組織委員会　名誉会長

横浜市長　林　文子

現代アートがむすぶ人、社会、時代

このたびヨコハマトリエンナーレ2020「AFTERGLOW－光の破片をつかまえる」が、世界各地のビエンナーレトリエンナーレに先駆けて開催する運びとなりました。

コロナ禍の中、開幕の延期を含む様々な対応を重ねた上で、ここに実現の運びとなるにあたり、ご支援くださった多くのみなさまに、心より厚く御礼申し上げます。

世界各国と行き来が困難な状況下で、アーティスティック・ディレクター ラクス・メディア・コレクティヴと参加アーティストのみなさまの熱意によって、世界最先端の表現が生まれ、ここ横浜から世界に向けて発信されます。

2001年に第1回の横浜トリエンナーレが始まってから20年あまりの間にも、グローバリゼーション、環境問題、紛争や分断など、世界は想像もしていなかったような変化と困難に立ち向かってきました。その間も、本トリエンナーレは現代美術を通して、芸術文化が持つ力や可能性を信じ、人と社会と時代をむすび、横浜で様々な出会いやつながりが生まれるように取り組み、ナショナルプロジェクトとして国からの大きな期待を受け、世界からも注目を浴びる歴史ある国際展に成長してまいりました。

様々な制約の中での開催が、新型コロナウイルスの爆発的感染拡大が投げかけた文明への課題に、芸術がどう応えるかを考えるよい機会になることを願っております。

ヨコハマトリエンナーレ2020が、これまでと同じように多くの方々に親しまれるものになり、また、それぞれに知的・文化的刺激を受け、これからの世界を生き抜くための知恵を育むための道しるべになれば幸いです。

横浜トリエンナーレ組織委員会　委員長

近藤　誠一

ヨコハマトリエンナーレ2020に向けて

2020年、私たちは新型コロナウイルス感染拡大という大きな困難に直面しました。展覧会場に足を運び、実際の作品を見、多くの人々とよろこびを分かち合うことには価値がある。この大前提が崩れ、アート界は今までにない試練を経験しました。

こうした状況の中、私たちは世界のビエンナーレ、トリエンナーレの先頭を切ってヨコハマトリエンナーレ2020「AFTERGLOW―光の破片をつかまえる」を開催いたします。ここには、今だからこそみなさんとともに考えたいテーマが詰まっています。

アーティスティック・ディレクターであるラクス・メディア・コレクティヴは、展示の鍵となる重要な言葉をいくつかあげています。

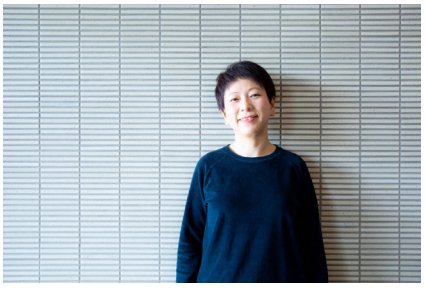
「独学」　自らたくましく学ぶ。
「発光」　学んで得た光を遠くまで投げかける。
「友情」　光の中で友情を育む。
「ケア」　互いを慈しむ。
「毒」　世界に否応なく存在する毒と共存する。

いずれも新型コロナウイルス流行下の私たちの経験を予見するかのような内容です。特に「毒」との共存という考え方は、コロナ後の世界を生きざるをえない私たちにとって示唆的です。

今回のヨコハマトリエンナーレには、30以上の国や地域で活動する60人（組）以上のアーティストたちが参加します。20代、30代が半数を占める若い作家たちが、移動の禁止、物流の停止といった事態を乗り越えて展示を実現させます。ラクス・メディア・コレクティヴを含め、海外からのアーティストを招聘できない状況下で、オンライン・ミーティングを重ねながら初日を迎える今回のトリエンナーレは、私たちにとっても大きな挑戦です。

来館される方々にとって、このトリエンナーレが、作品に向き合い、新しい世界を予感するための豊かな実体験の場となることを願っています。

©Aterui


撮影：田中功起

横浜トリエンナーレ組織委員会　副委員長
逢坂恵理子
蔵屋美香

AFTERGLOW

光の間隔、輝く期待、ゆらめく光の流れ、
存在の茂みと生成の間を流れるあふれるエネルギー

ラクス・メディア・コレクティヴ
（ヨコハマトリエンナーレ2020 アーティスティック・ディレクター）

トリエンナーレというものは、人の学びを刺激するいくつもの「環境（ミリュー）」を作り出します。それは、休眠中のものであれ緊急のものであれ、世界のそれぞれに異なるさまざまな場所からやってきた関心事の間を泳ぎ回ることへと、みなさんを招き入れます。それらの関心事は、並べ替えられ、境界線を引き直され、解決がつかぬまま互いに共存しています。約２年前、わたしたちは今回のヨコハマトリエンナーレに向かって、わたしたち自身の航海に乗り出しました── ケア（いたわり）について、毒を含み持つケアについて、ケアと友情について、友情の中にある輝きについて、そして光輝のコスモロジー宇宙論についての問いを胸にして。昨年11月にはパフォーマンスとレクチャーのイベント、「エピソード00　ソースの共有」を開催し、考えのもととなるこれらの「ソース（source、源泉の意味）」を参加アーティストのみならず世界と共有しました。

一方、この数ヶ月の間に、生命をもたない存在である小さなウイルスが出現し、わたしたちが思い込んでいたことをひっくり返して人類全体に課題を突き付けました。人類史上初めて、世界各地にいる数十億人が──お互いの存在を意識しながら──生き方の作り直しを余儀なくされたのです。こうして、世界を捉え直すことの必要性が誰の目にも明らかになりました。

わたしたちは今、なじみのない、ウイルス性の、そして先が読めないところがある時代の残光（afterglow）の中にいます。誰もがよく知る手引書はまだありません。わたしたちはひとりで、そして仲間と一緒に、ぐらぐら揺れる目盛りを使いこなして航海を導いていかねばなりませんが、なじみのルールがどんどん変更されるので、目盛りの揺れはひどくなるばかりです。わたしたちはいま暴風雨のまっただ中にいて、みんなでその風圧にさらされているのです。

ヨコハマトリエンナーレ2020「AFTERGLOW ー光の破片をつかまえる」はまた、一つの「場」でもあります。この展覧会でみなさんは、アーティストがじっくりと考えたことの間を歩き回りながら、わたしたちの内から宇宙にまで橋をかける虹のような光の帯を感じ取り、また自分で生み出すため、みずから学びたいという衝動を高めるのです。みずから学ぶ者＝独学者たちは、あらゆることを学び、また学んだことをどんどん捨てていきます。彼らは必要なら、誰かが押し付けたも

Photo: KATO Hajime

の、世の中で当然とされているものすべての中ではみだし者になることもためらいません。なぜなら、世界をうまくまわすためのマニュアルに書かれた機能や指示がまともに働かなくなったときには、機能や指示そのものを書き換えていかなければならないからです。

「AFTERGLOW一光の破片をつかまえる」はまた、関係を結ぶための、行動指針や強い感情のための、そしてがまん強さと驚きをもって世界を見、物語る力を支えるための、基盤のようなものでもあります。この足場は、わたしたちが、脈打ついのちの中にあるかすかな揺らぎや断層、つまずきや飛翔を感じ取ることを助けてくれます。こうしたことを理解するためには、自分の中にある「ソース」へと近づいていかなければなりません。「ソース」はしばしば、ありふれたくらしの中に、また平穏無事な風景の中に、宝物のように隠されています。これらの「ソース」は、ゲームのルールを変えるためのきずなを、親しさを、また女性たちの連帯を育むための助けになるのです。

2019年にわたしたちが発表した「AFTERGLOW一光の破片をつかまえる」のための『ソースブック』の中で、みなさんと共有した目くるめく驚きを、この場であらためて感じてもらいたいと願っています。

「生命、宇宙、世界、そして日々の時間は、数えきれないほどの行為を通じて、分解・再構成され、発光に守られて徐々に再建されていく。短い間の傷も、時間の有毒なかけらが放つ残光（afterglow）の中で回復していく。生命とは発光する独学者なのである」。

さあ、「AFTERGLOW一光の破片をつかまえる」へようこそ。

ラクス・メディア・コレクティヴ
ニューデリー、2020年7月

[須川善行 訳]

AFTERGLOW

A luminous interval, a glowing anticipation, a lambent flow, a charged current of energy between thickets of presence and becoming

The milieus that emerge with a Triennale are an invitation to a migration of concerns, hibernating or urgent, from distinct and diverse locations. They then stand re-aligned and re-drawn, suspended in co-presence. We commenced our own crossing, leading to this edition of the Yokohama Triennale, about two years ago, with questions about care, about care with toxicity, about care and friendship, about luminosity within friendship, and about cosmologies of luminance. We shared these sources, not only with the artists but also the world in Episōdo 00.

Meanwhile, in the course of a few months, a tiny virus, an un-living being, emerged, upending assumptions and assigning a task to the entire species. For the first time in human history we, all the billions from all parts of the world, have to undertake — in awareness of each other — the re-making of forms of life. It has brought to the foreground the necessity of re-apprehending the world.

We are now in the afterglow of an unfamiliar, viral, and partly unreadable time, and are without familiar protocols. Alone, and collectively, we have to navigate the oscillation of scales, quickened by the alteration in familiar rules. We are now immersed in a turbulent flow whose pressure rides through us all.

The *Afterglow* is also a site: it is this exhibition where you walk through deliberations with artists, activating an auto-didactic impulse for the sensing and making of the spectrum that arches from our inner to our cosmic worlds. Autodidacts learn and un-learn everything. If necessary, they need to become misfits in relation to all that is given and taken for granted, because when all the functions and instructions that are written into the manual for fixing a world can't be fixed, they must be altered.

The *Afterglow* is also an infrastructure of relationships, of precepts and affects, of an ability to see and narrate the world with patience and wonderment. This scaffolding helps us sense tremors and fault lines, breakdowns and breakthroughs in the pulsations of life. These capacities are necessary to access sources within us, which may sometimes be hidden in the reservoirs of our common life, of our connected and contiguous landscapes. They help script the forging of bonds, and of affinities and sororities, so as to change the rules of the game.

In the *Sourcebook* (2019) to *Afterglow* , we had shared an amazement, which we would like you to feel again:

"Life, the universe, the world, and the time of each day disintegrates and gets re-constituted through innumerable acts, incrementally rebuilding through luminous care. Broken minutes are mended in the afterglow of time's toxic debris.
Life is a luminous autodidact."

In this *Afterglow*, we welcome you.

Raqs Media Collective
New Delhi, July 2020

ヨコハマトリエンナーレ2020
「AFTERGLOW ー光の破片をつかまえる」

Photo: KATO Hajime

展覧会という「茂み」について

木村 絵理子
（ヨコハマトリエンナーレ2020 企画統括）

ヨコハマトリエンナーレ2020「AFTERGLOW ー光の破片をつかまえる」は、展覧会とともに、それが開催される土地や時間、さらに表現領域から解放し、拡張させる試みとしてのエピソード(註※)を併せて開催するものであり、ここでは主に展覧会で発表される作家・作品の特徴を紹介します。

目下、かつてない不安定な状況下での準備を余儀なくされているヨコハマトリエンナーレ2020に向けて、まるで今の状況を予見するかのようにラクス・メディア・コレクティヴが提示したタイトルは、あらゆる物事が複雑に絡み合う世界の中で、思考と知恵の「茂み」の中に流れるエネルギーと、それを自らの手でつかみとろうとする行為を象徴する「光の破片＝AFTERGLOW」という言葉です。これは、2019年11月に発表された5つのテキストからなる「ソース」から導き出されたものであり、そこには、人間の探究心や独学で得られた知識、友情や他者への思いやり、有毒なものとの共生といった、既成のヒエラルキーに囚われない価値観が込められています。

では今回発表された参加アーティストたちの作品は、具体的にどのような形で展覧会という「茂み」を形成するのでしょうか。

例えばある一群の作品は、過去に発生した何らかの事象に注目します。その多くは、作家自身やその家族、身近な人たちが体験した出来事に端を発し、そこから世界の歴史や政治だけでなく、科学や医療、生態系の未来など、柔軟かつ自由に思考を拡げ、それぞれの作品世界を展開していきます。またある作品群では、人間の身体がモチーフとなります。身体の脆弱さや他者からの制御。既成の記号的意味を持つ身体が、異なる文脈の中でどのような意味を持ちうるのか。あるいは、また別の記号的意味と合体して変容する場合など、身体そのものの特性やその意味の多様性が提示されます。そしてまた別の作品では、人間の知覚とその認識のメカニズムに目を向けて、私たちが理解している世界というものが、いかに私たちの知覚との相対的関係性の中で成立する、移ろいやすさの内にあるのかを気づかせてくれます。

新型コロナウィルスの世界的流行によって顕在化したのは、その毒性以上に、情報への不信と過信、不確定な未来や他者への恐怖となっているようです。目の前の危機が過ぎ去った時、恐怖の記憶は澱のように人々や社会の其処此処に残っていくかもしれません。こうした世界の中で生き延びていくためには、人間社会のみならず生態系全体の多様性を認め、それぞれが自立して、光を放つように存在することが今まで以上に重要な意味を持ってくるでしょう。ヨコハマトリエンナーレ2020は、現代アートを通じて、私たちそれぞれが不確かな未来への一歩を踏み出す「光をつかまえる」力について考える機会となることを目指します。

※エピソードの参加アーティストについては、その一部をP.10の作家リストで発表しています。

参加アーティスト一覧（計67組）

アーティスト名（日）※1	アーティスト名（英）※1	生没年	会　場	新作 ※2	日本初発表 ※3
ハイグ・アイヴァジアン	Haig AIVAZIAN	1980	プロット 48	○	○
ファラー・アル・カシミ	Farah AL QASIMI	1991	プロット 48	○	○
モレシン・アラヤリ	Morehshin ALLAHYARI	1985	横浜美術館		
ロバート・アンドリュー	Robert ANDREW	1965	横浜美術館	○	○
青野文昭	AONO Fumiaki	1968	横浜美術館	○	
新井 卓	ARAI Takashi	1978	横浜美術館	○	
コラクリット・アルナーノンチャイ	Korakrit ARUNANONDCHAI	1986	プロット 48	○	
ローザ・バルバ	Rosa BARBA	1972	横浜美術館		
タイスィール・バトニジ	Taysir BATNIJI	1966	横浜美術館		○
イシャム・ベラダ　♦	Hicham BERRADA　♦	1986	プロット 48	○	○
ニック・ケイヴ	Nick CAVE	1959	横浜美術館	○	○
チェン・ズ（陳 哲）	CHEN Zhe	1989	横浜美術館	○	
ジェシー・ダーリング	Jesse DARLING	1981	横浜美術館	○	○
マックス・デ・エステバン	Max DE ESTEBAN	1959	横浜美術館		○
エヴァ・ファブレガス	Eva FÀBREGAS	1988	横浜美術館	○	○
マリアンヌ・ファーミ	Marianne FAHMY	1992	日本郵船歴史博物館	○	○
アリア・ファリド	Alia FARID	1985	横浜美術館		○
ファーミング・アーキテクツ	Farming Architects	2017 設立	プロット 48	○	○
イヴァナ・フランケ　♦	Ivana FRANKE　♦	1973	横浜美術館	○	
ラヒマ・ガンボ	Rahima GAMBO	1986	プロット 48		○
ズザ・ゴリンスカ	Zuza GOLIŃSKA	1990	横浜美術館	○	○
アンドレアス・グライナー	Andreas GREINER	1979	プロット 48	○	
インティ・ゲレロ　♦	Inti GUERRERO　♦	1983	横浜美術館	○	○
ニルバー・ギュレシ	Nilbar GÜREŞ	1977	横浜美術館		○
ティナ・ハヴロック・スティーヴンス	Tina HAVELOCK STEVENS	—	プロット 48		○
ジョイス・ホー（何 采柔）	Joyce HO	1983	プロット 48	○	
インゲラ・イルマン	Ingela IHRMAN	1985	横浜美術館	○	○
飯川雄大	IIKAWA Takehiro	1981	プロット 48	○	
飯山由貴	IIYAMA Yuki	1988	横浜美術館	○	
岩井 優　♦	IWAI Masaru　♦	1975	横浜美術館	○	
岩間朝子	IWAMA Asako	—	横浜美術館	○	
金氏徹平	KANEUJI Teppei	1978	横浜美術館	○	
川久保ジョイ	KAWAKUBO Yoi	1979	プロット 48	○	
レボハング・ハンイェ	Lebohang KGANYE	1990	横浜美術館	○	○
キム・ユンチョル	KIM Yunchul	1970	横浜美術館	○	○

アーティスト名（日）※1	アーティスト名（英）※1	生没年	会　場	新作 ※2	日本初発表 ※3
エレナ・ノックス	Elena KNOX	—	プロット 48	○	
ラウ・ワイ（劉 衛）	LAU Wai	1982	プロット 48		
ラス・リグタス	Russ LIGTAS	1985	プロット 48	○	
メイク・オア・ブレイク（レベッカ・ギャロ＆コニー・アンテス）	Make or Break (Rebecca GALLO & Connie ANTHES)	1978/1985	横浜美術館	○	○
タウス・マハチェヴァ	Taus MAKHACHEVA	1983	横浜美術館	○	○
カベロ・マラッツィ ♦	Kabelo MALATSIE ♦	1987	—	○	○
ナイーム・モハイエメン	Naeem MOHAIEMEN	1969	プロット 48	○	
ジェイムス・ナスミス	James NASMYTH	1808-1890	横浜美術館		
パク・チャンキョン	PARK Chan-kyong	1965	横浜美術館		
アモル・K・パティル	Amol K. PATIL	1987	プロット 48	○	○
刷音（シュアイン） ♦	Printing Sound ♦	2018 活動開始	プロット 48	○	
アリュアーイ・プリダン（武 玉玲）	Aluaiy PULIDAN	1971	プロット 48		○
レーヌカ・ラジーヴ	Renuka RAJIV	1985	横浜美術館	○	○
オスカー・サンティラン	Oscar SANTILLAN	1980	横浜美術館 / プロット 48	○	○
サルカー・プロティック	SARKER Protick	1986	横浜美術館 / プロット 48	○	○
佐藤雅晴	SATO Masaharu	1973-2019	横浜美術館		
さとうりさ	SATO Risa	1972	横浜美術館 / プロット 48	○	
レヌ・サヴァント	Renu SAVANT	1981	プロット 48		○
イシュ・シュヘラーワト（イシュ・S）／ヴェンザ・クリスト ♦	Ish SHEHRAWAT (Ish S)/Venzha CHRIST ♦	1978/1973	横浜美術館	○	○
ツェリン・シェルパ	Tsherin SHERPA	1968	横浜美術館		○
新宅加奈子 ♦	SHINTAKU Kanako ♦	1994	—	○	
エリアス・シメ	Elias SIME	1968	横浜美術館		
レイヤン・タベット	Rayyane TABET	1983	横浜美術館		○
竹村 京	TAKEMURA Kei	1975	横浜美術館	○	
田村友一郎 ♦	TAMURA Yuichiro ♦	1977	—	○	
デニス・タン（陳 文偉） ♦	Dennis TAN ♦	1975	プロット 48	○	
アントン・ヴィドクル	Anton VIDOKLE	1965	プロット 48		
オメル・ワシム＆サーイラ・シェイク	Omer WASIM & Saira SHEIKH	1988/1975-2017	横浜美術館	○	○
ミシェル・ウォン ♦	Michelle WONG ♦	1987	—	○	○
ランティアン・シィエ ♦	Lantian XIE ♦	1988	横浜美術館	○	○
ジャン・シュウ・ジャン（張徐 展）	ZHANG XU Zhan	1988	横浜美術館	○	
ジェン・ボー（鄭 波）	ZHENG Bo	1974	プロット 48		

計67組（2020年7月現在）

※1　♦：エピソード参加アーティスト 12組
※2　ヨコハマトリエンナーレ2020のために新しく制作する作品、すでに発表されたものを本展のために再構成する作品 48組
※3　日本で初めて作品を発表する作家 35組

あらゆる方々に開かれたトリエンナーレを目指して

横浜トリエンナーレ組織委員会は、本事業を通じて、多くの方々がアーティストの作り出す新しい表現を身近に経験し、作品を通して世界や人間について思いを深める機会にしていきたいと考えます。

ヨコハマトリエンナーレ2020では、初めて現代アートを体験する方にも親しみやすく、また、言語や社会的ハードルなど様々なバリア（障壁）を越えて多くの方々に開かれた展覧会を目指し、新型コロナウイルス感染防止対策を講じて次のような活動に取り組みます。以下の活動以外にも様々なプログラムや機会を予定しています。

初めての方にも現代アートを親しみやすく　―鑑賞支援の取り組み

来場した方々に作品に親しんでいただく「いっしょに歩くヨコトリガイド2020」を制作し、またご自宅でもオンラインで展覧会を楽しんでいただく機会を設けます。

活動例

「いっしょに歩くヨコトリガイド2020」

アーティスティック・ディレクターが伝えたいこと、展覧会を鑑賞するためのキーワードを紹介し、見どころとなる作品の解説をまとめた鑑賞支援ツールを用意しました。

来場に困難を抱える方のためのプログラム　―社会包摂の取り組み

障害のある方、様々な事情で普段、展覧会になかなか来ることのできない方にも現代アートの魅力を楽しんでいただくための支援や環境づくりを行います。

活動例

分身ロボット「OriHime」を用いたヨコハマトリエンナーレ2020の鑑賞

障害等により外出することが難しい方を対象に、分身ロボット「OriHime」を用いた鑑賞を行います。来場した家族や友人が、外出することが難しい方の分身となる「OriHime」と一緒に展覧会会場を巡ります。鑑賞者は、「OriHime」を介して家族や友人とコミュニケーションを図りながら展覧会を体験します。「OriHime」を用いた鑑賞の詳細は改めて発表します。

中学生、高校生のためのアート体験プログラム　―次世代育成の取り組み

次世代を担う子どもたちを対象に豊かな創造性や感性を育むことを目的に、参加アーティストや専門家によるワークショップを含む長期プログラム「中高生プログラム」を開催します。

活動例

中高生プログラム「ヨコトリ2020を体験しよう！伝えよう！」を開催

ヨコハマトリエンナーレ2014のアーティスティック・ディレクター森村泰昌氏の発案で始まったプログラムです。中学生・高校生が、参加アーティストや専門家との出会いを通して現代アートの様々な魅力を体験します。（追加募集予定です）

Photo: KATO Ken

市民と一緒につくるヨコハマトリエンナーレ2020　―市民協働の取り組み

アーティスト支援、作品運営の補助、オンラインによる作品ガイドなど、展覧会の制作の一端にご参加いただき、現代アートに興味・関心をお持ちの方々が、より深くアートを体験できる機会です。

活動例

市民と行う「エピソード06　岩井優　《彗星たち》」参加型アクション

岩井優氏は「洗浄」をテーマに作品制作を行うアーティストです。トリエンナーレ会期中、オンライン上で市民と一緒に紙袋型マスクの制作やディスカッションを行います。

詳細・募集WEBサイト：
https://www.yokohamatriennale.jp/2020/concept/episodo/06/

©Masari IWAI, Courtesy of Takuro Someya Contemporary Art

ガイドサポーターによるオンラインガイド

市民によるガイドサポーターが、オンラインを使って、展覧会に来られない方、これから来場する方々対象に、展覧会の概要とみどころとなる作品を紹介するガイダンス「オンラインガイド　ヨコトリ2020 ここがみどころ！」を発信します。詳細は改めて発表します。

2017年活動風景：2020年はオンラインで行います。

チケット情報 チケットは、日時指定の予約制です。 オンラインでチケットをご購入の上、ご来場ください。

ヨコハマトリエンナーレ2020チケット

一般	大学生・専門学校生	高校生	中学生以下
2,000円	1,200円	800円	無料（事前予約不要）

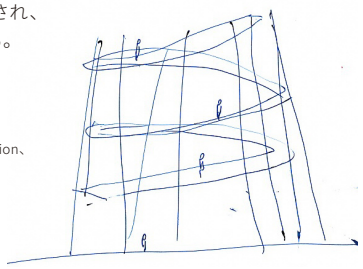
横浜アート巡りチケット

「BankART Life VI」「黄金町バザール2020」も一緒に楽しめて1,200円もお得！

一般	大学生・専門学校生	高校生以下
2,800円	2,000円	BankART、黄金町は無料 ヨコトリ2020は上記金額です

BankART Life VI 都市への挿入

超高層ビルが林立する、みなとみらい21地区。その結節点の数か所に、川俣正の巨大な構築物が挿入され、新たなネットワークが生まれる。



会期：2020年9月11日(金)〜10月11日(日)
会場：みなとみらい21地区、BankART Station、R16 Studio
主催：BankART1929
料金：単独パスポートは1,000円（税込）
お問い合わせ：045-663-2812
info@bankart1929.com
www.bankart1929.com

黄金町バザール2020 ― アーティストとコミュニティ

京急線高架下周辺に広がる街を舞台に、43組のアーティストが作品を展示。アーティストとコミュニティの関係、その可能性について問いかける。

会期：第1部2020年9月11日(金)〜10月11日(日)
第2部2020年11月6日(金)〜11月29日(日)
会場：初黄・日ノ出町地区（黄金町エリア）
主催：黄金町エリアマネジメントセンター、初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会
料金：単独パスポートは1,000円（税込）
お問い合わせ：045-261-5467
info@koganecho.net
www.koganecho.net

・ヨコハマトリエンナーレ2020チケットで、横浜美術館、プロット48、日本郵船歴史博物館に入場できます。
・横浜美術館への入場は日時指定が必要です。
プロット48は、【横浜美術館と同日に限り】お好きな時間にご入場いただけます（ただし入場は閉場の30分前まで）。
・日本郵船歴史博物館では、出品作家マリアンヌ・ファーミの作品が展示されています。チケット提示で横浜美術館の日時指定にかかわらずお好きな日時に入館いただけます。開館日・時間は、横浜美術館、プロット48とは異なります。同博物館WEBサイト（https://museum.nyk.com/）をご覧ください。
・横浜アート巡りチケットを購入された方は、９月11日（金）から10月11日（日）までに、BankART Station、黄金町バザール2020会場内インフォメーションにて、チケットを提示の上、「BankART Life VI」、「黄金町バザール2020」の会期中有効なパスポートをそれぞれお受け取り下さい。
・いずれのチケットも障がい者手帳をお持ちの方と介護の方１名は無料です。（事前予約不要）
・団体受入れ及び団体割引はおこなっておりません。

チケット購入方法 毎月１日午前 10 時（日本時間）に、翌月分のチケットを発売します。

オンラインによる購入
公式 WEB サイトから購入できます　https://www.yokohamatriennale.jp

会場窓口での購入
オンラインチケットに空きがある場合は、横浜美術館、プロット 48 のチケット販売窓口で購入できます。（開場日のみ・閉場 30 分前まで）
※日本郵船歴史博物館、BankART Station、黄金町バザール 2020 会場内インフォメーションでは、チケットをご購入いただけません。

チケットに関する詳細は、公式ＷＥＢサイト「チケット・アクセス」情報をご確認ください。
URL：https://www.yokohamatriennale.jp/2020/ticket/

お問い合わせ先
［ハローダイヤル］050-5541-8600（全日 8:00-22:00）

新型コロナウイルス感染症対策

来場者の感染予防

・入場にあたり、マスクの着用、こまめな手洗い・消毒、体温測定、来場者同士の距離の確保へのご協力をいただきます。
・発熱等の風邪の症状がある方、体調がすぐれない方のご来場をお控えいただきます。
・会場入口にサーモグラフィーを設置し、37.5℃以上の発熱がある場合は、入場をお断りします。

会場内の感染予防

・日時指定予約チケットを導入し、来場者同士の距離を保てるよう入場制限を行います。
・会場内の換気を行うほか、手が触れる場所の消毒を常時巡回して実施します。
・2m間隔を目安にフロアマーカー等を設置し、来場者同士の距離を確保します。

スタッフの感染予防

・スタッフ全員が、検温と体調チェックを行います。
・マスクやフェイスシールド、手袋の着用等、適切な防護対策を講じます。

皆様に安心してヨコハマトリエンナーレ2020を楽しんでいただけるように準備を進めてまいります。

アクセス

横浜美術館

横浜市西区みなとみらい 3-4-1

みなとみらい線（東急東横線直通）みなとみらい駅〈3番出口〉からマークイズみなとみらい〈グランドガレリア〉経由徒歩3分
JR（京浜東北・根岸線）および横浜市営地下鉄（ブルーライン）桜木町駅から〈動く歩道〉利用、徒歩10分

Photo: KASAGI Yasuyuki

プロット48

横浜市西区みなとみらい 4-3-1

みなとみらい線（東急東横線直通）新高島駅〈2番出口〉から徒歩7分
横浜市営地下鉄（ブルーライン）高島町駅〈2番出口〉から徒歩7分

Photo: KATO Hajime

日本郵船歴史博物館

横浜市中区海岸通 3-9

みなとみらい線（東急東横線直通）馬車道駅〈6番出口〉から徒歩2分
JR（京浜東北・根岸線）「関内駅」〈北口〉から徒歩8分または桜木町駅から徒歩12分

支援／特別協力／後援／協賛／協力／助成／アーティスト支援／認証

［支援］ 文化庁（国際芸術フェスティバル支援事業）

［特別協力］ 独立行政法人国際交流基金、独立行政法人都市再生機構

［後援］ 神奈川県、神奈川新聞社、tvk（テレビ神奈川）

［協賛］

［協力］ 株式会社ACM、京浜急行電鉄株式会社、相鉄グループ、第一織物株式会社、日本郵船歴史博物館
Peatix Japan株式会社、富士ゼロックス株式会社、横浜高速鉄道株式会社、株式会社横浜都市みらい

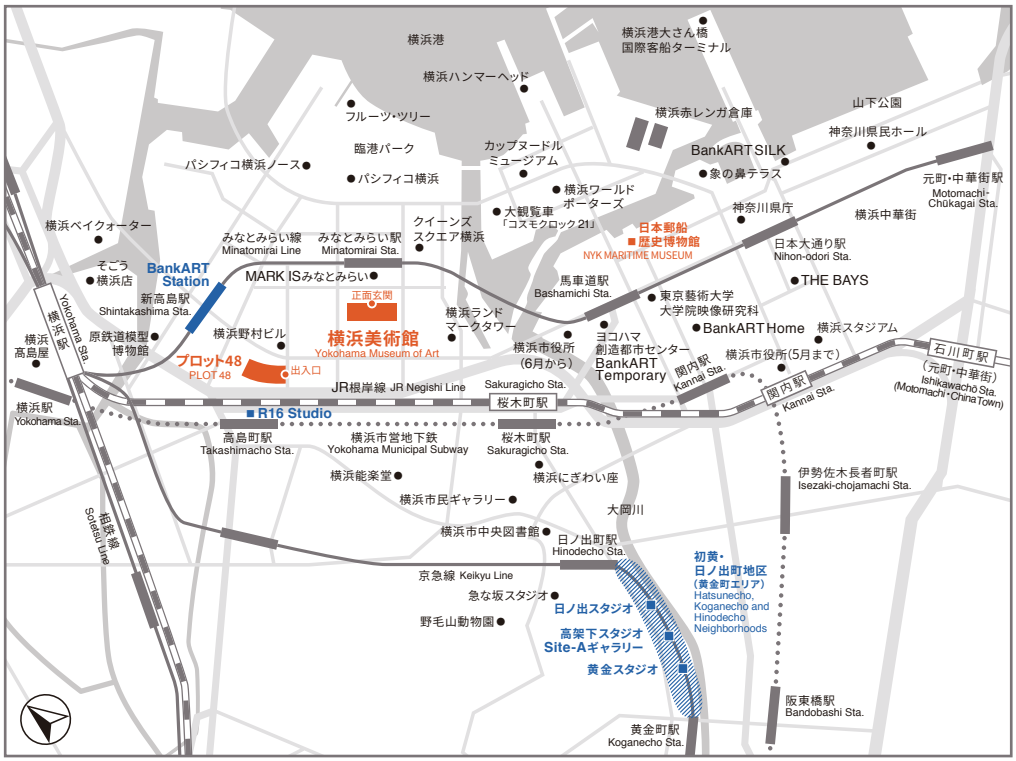
［助成］

［アーティスト支援］ 台北駐日経済文化代表処台湾文化センター

［認証］

開催概要

タイトル	ヨコハマトリエンナーレ2020「AFTERGLOW－光の破片をつかまえる」 Yokohama Triennale 2020 “Afterglow”
アーティスティック・ディレクター	ラクス・メディア・コレクティヴ
展覧会会期	2020年7月17日(金) － 10月11日(日) 木曜日休場（7/23、8/13、10/8を除く）、開場日数78日
会場	横浜美術館　横浜市西区みなとみらい3-4-1 プロット48　横浜市西区みなとみらい4-3-1 ＊下記会場でも作品の展示がございます。 日本郵船歴史博物館　横浜市中区海岸通3-9
開場時間	10:00-18:00 ※10/2（金）、10/3（土）、10/8（木）、10/9（金）、10/10（土）は21:00まで開場 ※会期最終日の10/11(日)は20:00まで開場
主催	横浜市、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団、ＮＨＫ、朝日新聞社、 横浜トリエンナーレ組織委員会



ヨコハマトリエンナーレ2020 実施体制

アーティスティック・ディレクター　ラクス・メディア・コレクティヴ

横浜トリエンナーレ組織委員会

名誉会長　林　文子（横浜市長）[代表]
前田晃伸（NHK会長）
渡辺雅隆（朝日新聞社代表取締役社長）

委員　近藤誠一（[公財]横浜市芸術文化振興財団理事長）[委員長]
逢坂恵理子（国立新美術館館長）[副委員長]
蔵屋美香（横浜美術館館長）[副委員長]
椋健一郎（NHK事業センター長）
澤　和樹（東京藝術大学学長）
神部　浩（横浜市文化観光局長）
高階秀爾（大原美術館館長）
建畠　晢（多摩美術大学学長）
柄　博子（[独法]国際交流基金理事）
堀越礼子（朝日新聞社執行役員 企画事業担当兼企画事業本部長）

事務局

開催本部長　松元公良**
事務局長　五十嵐誠一*
事務局次長　秋山大介（NHK）
八巻直史（朝日新聞社）

プロジェクト・マネージャー／事務局次長　帆足亜紀*
管理運営マネージャー／事務局次長　梶原　敦**
コミュニケーション・マネージャー　西山有子

-キュレトリアル・チーム
展示統括／キュレーター　内山淳子*
企画統括／キュレーター　木村絵理子*
キュレーター　林　寿美
アシスタント・キュレーター　日比野民蓉*

コーディネーション統括/レジストラー　鈴木祐子
キュレトリアル・コーディネーター（「エピソード」コーディネーター）　武井麻里子
キュレトリアル・コーディネーター（レジストラー）　富安玲子
キュレトリアル・コーディネーター　倉茂なつ子
キュレトリアル・アシスタント　芝田　遥

テクニカル・コーディネーター　山元史朗

アシスタント・プロジェクト・マネージャー　福岡綾子*
プロジェクト・コーディネーター　鈴木慶子
インターン（2019年度）　磯田みのり、今関友里香、富永梨紗子

-アドミニストレーション・チーム
運営担当※　赤崎由香**、今西めぐみ**、小川　哲**、小川宣幸**、小山内幸恵*、木村綾夏**、髙田　聡**
高林真梨子*、土田香織*、鶴見天平**、半澤奈波、平林乙彦**、丸山晶子**、山田卓広**
広報・プロモーション担当　岩田朋子、岩波　藍**、高橋伸佳*、津金澤恭之**、山際　良、米津いつか

デザイナー　アリアナ・スパニエ

空間構成　MMA inc. 工藤桃子

ラクス・メディア・コレクティヴ・リサーチ・アシスタント　カウシャル・アジェイ・サプレイ、今村宙幹（2019年度）、塩﨑恵里香（2019年度）

※総務、経理、会場調整・運営、次世代育成、社会包摂、市民協働、グッズ、ショップ、地域連携等
*横浜美術館（[公財]横浜市芸術文化振興財団）所属　**横浜市所属

開催実績

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
開催年	2001年	2005年	2008年	2011年	2014年	2017年
会期 (開場日数)	9月2日 - 11月11日 (67日)	9月28日 - 12月18日 (82日)	9月13日 - 11月30日 (79日)	8月6日 - 11月6日 (83日)	8月1日 - 11月3日 (89日)	8月4日 - 11月5日 (88日)
主会場 (有料)	[2会場] ・パシフィコ横浜 展示ホール ・横浜赤レンガ倉庫 1号館	[1会場] ・山下ふ頭3号・4号上屋	[4会場] ・新港ピア ・日本郵船海岸通倉庫 (BankART Studio NYK) ・横浜赤レンガ倉庫 1号館 ・三渓園	[2会場] ・横浜美術館 ・日本郵船海岸通倉庫 (BankART Studio NYK)	[2会場] ・横浜美術館 ・新港ピア	[3会場] ・横浜美術館 ・横浜赤レンガ倉庫 1号館 ・横浜市開港記念会館 地下
テーマ	メガ・ウェイブ ー新たな総合に向けて	アートサーカス [日常からの跳躍]	TIME CREVASSE ータイムクレヴァスー	OUR MAGIC HOUR ー世界はどこまで知ることができるか?ー	華氏451の芸術: 世界の中心には 忘却の海がある	島と星座とガラパゴス
ディレクター ／キュレーター	アーティスティック・ ディレクター: 河本信治 建畠 晢 中村信夫 南條史生	総合ディレクター: 川俣 正 [キュレーター] 天野太郎 芹沢高志 山野真悟	総合ディレクター: 水沢 勁 [キュレーター] ダニエル・バーンバウム フー・ファン 三宅暁子 ハンス・ウルリッヒ・オブリスト ベアトリクス・ルフ	総合ディレクター: 逢坂恵理子 アーティスティック・ ディレクター: 三木あき子	アーティスティック・ ディレクター: 森村泰昌 [アソシエイト] 天野太郎 大舘奈津子 柏木智雄 神谷幸江 林 寿美	コ・ディレクター: 逢坂恵理子 三木あき子 柏木智雄
作家数	109作家	86作家	72作家	77組 79名	65組 79名	38組 1プロジェクト
作品数	113件	84件	66件	337件	444件	344件
総事業費	約7億円	約9億円	約9億円	約9億円	約9億円	約9億円
総来場者数	約35万人	約19万人	約55万人	約33万人	約21万人	約26万人
外国人 来場者数	—	—	—	約3,000人	4,501人	7,059人
中学生以下 来場者数	—	—	—	24,205人	26,381人	26,988人
有料会場 来場者数	約35万人 ※ ＊チケットは2日間有効 （連続しない日も可） ＊未就学児無料	約16万人 ＊チケットは1日に限り有効 ＊フリーパスあり ＊中学生以下無料	約31万人 ※ ＊チケットは2日間有効 （連続しない日も可） ＊中学生以下無料	約30万人 ※ ＊チケットは1会場1日有効 ＊中学生以下無料	約21万人 ※ ＊チケットは1会場1日有効 ＊中学生以下無料	約25万人 ※ ＊チケットは1会場1日有効 ＊中学生以下無料
チケット 販売枚数	約17万枚	約12万枚	約9万枚	約17万枚	約10万枚	約10万枚
メディア 露出件数	237社以上 （うち海外36社以上） ＊掲載件数は記録なし	1,089件 （うち海外40件）	1,233件 （うち海外165件）	1,763件 （うち海外139件）	3,899件 （うち海外117件）	6,923件 （うち海外314件）
ボランティア 登録者数	719人	1,222人	1,510人	940人	1,631人	1,474人

※ 第1回、第3回、第4回、第5回、第6回については、有料会場の延べ入場者数

横浜トリエンナーレの基本的な考え方

使命　横浜トリエンナーレは、我が国を代表する現代アートの国際展として、文化芸術創造都市・横浜の発展をリードするとともに、多様性を受け入れる心豊かな社会の形成に寄与します。

目標

アートでひらく　ひらかれた現代アートの祭典として、誰もが多様な表現に触れる機会を分野と時代を横断して提供し、世代等を超えた理解を促進します。

世界とつながる　ナショナルプロジェクトとして、横浜から新しい価値観と新たな文化を継続的に世界に届け、国際交流と相互理解に貢献 します。

まちにひろがる　文化芸術創造都市として築いている、横浜ならではのまちの力と一体的に推進します。

行動方針　世界水準　次世代育成　社会包摂　市民参加　祝祭性　賑わいづくりと経済活性化

《プレスお問い合わせ先》

ヨコハマトリエンナーレ2020広報事務局（株式会社プラップジャパン）　担当 : 横澤、本郷、増田
〒107-6033 東京都港区赤坂1-12-32 アーク森ビル33F
E-MAIL : yokotori2020pr@prap.co.jp　TEL : 03-4580-9109（平日10:00〜18:00）

《横浜トリエンナーレ組織委員会お問い合わせ先》

横浜トリエンナーレ組織委員会事務局 広報担当 : 高橋
〒220-0012 横浜市西区みなとみらい3-4-1 横浜美術館内
E-MAIL : press@yokohamatriennale.jp　TEL: 045-663-7232（平日10:00〜18:00）　FAX : 045-681-7606